

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁 教皇フランシスコの訪日メッセージに込めて(4)

4頁 第13回戦争と平和写真展

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2020年 司教年頭書簡を読む(9)

道、真理、いのちであるキリスト

「私は道であり真理でありいのちである」(ヨハネ14・6)という聖句はとても有名で、教会の掲示板などでもよく目にします。イエスはご自分を道だとおっしゃるのです。そして私たちも、道としてのイエスを歩む体験をしています。「わたしたちの地球のための祈り」の中に「あなたの無限の光に向かう旅路」という一句があって、私たちが今、道を歩んでいること、旅の途中にあることを、思い起こさせてくれます。

年頭書簡では、十字架につけられて死んだイエスに光が当てられています。イエスの十字架上の死が、地と天をつなぐ道となったのです。イエスが十字架で息を引き取った時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けて、誰も入ることができなかった至聖所への道が「開通」しました(マタイ27・51)。この「開通」をヘブライ書は、キリストが天の完全な幕屋を通りぬけて、山羊や牛の血ではなくご自身の血によって、たった一度聖所に入り、これによって永遠の贖いが成し遂げられたと語ります(ヘブライ9・11～12参照)。キリストが血を流され体が打ち砕かれたことによって開通した、私たちの天への道が、ユダヤ教の伝統儀式に照らされながら、鮮やか



斑鳩の道

に語られているわけです。私たちがキリストにならって歩むその道、キリストがともに歩んでもくれるその道、打ち砕かれた贖いのキリストによって切り開かれた道、さらには今私たちが新型コロナウイルスと共に歩んでいるこの道、この日常、ここに私たちは、真理であり、いのちであるものを見出しながら歩み続けます。真理やいのちを見出すのは、その道が神の恵みが満ちた道だからです。「それぞれのものの価値を見出すこと、驚きの光で観想すること、あなたへの無限の光に向かう旅路にあって、すべての被造物と深く結ばれていると認めることを、わたしたちに教えてください」。(「わたしたちの地球のための祈り」より)

菅原友明

10
2020

すべてのいのちを守るため

『教皇フランシスコ訪日講話集』を読む⑦

夢を抱くものとなってください

今回は、青年について書いてみたいと思います。若い人に対する篤い思いが、私たちの心にあふれたことを思い出し、なかなか書き出せません。特にそれは、NICE-1（第一福音宣教推進全国会議1987年）の時のことです。それが青年センターを生み出したことを、憶えておきたかったからです。もう、あの頃のことを知っている人は、ほとんどいなくなりました。NICE-1が終わってから、もう30年以上もたちますから。私も今はもうすっかりオジイちゃんになって、語る言葉ありませんが…。

また、もう一つ、1981年頃、教区ビジョン（京都司教区HP「京都教区の方針」参照）を作り上げたことを思い出します。それは私たちの「幻」ではなく、将来の明るい「夢」だったのです。夢を語り、生まれたのが教区ビジョンであり、NICE-1であり、「教区の見直し」だったのです。このことについては、遺言のように書き残しておくべきかもしれません。こんなことを書くのは、今の若いみなさんに何かお役に立てるかもしれないと思っていますからです。

しかし今回は、教皇フランシスコが東京カテドラルでの青年へのメッセージを思い起こし、これと共に、使徒的勧告「キリストは生きている」と、WYD（世界青年の日）のメッセージをじっくり黙想することが大切です。インターネットをこなせる皆さんは、たちどころに教皇メッセージを捉えることができます。ところが、まあこの私ときたら、まったくITが使えないのです。驚かれるでしょうが、でも案外私は平和なのです。

さて、教皇来日中の青年へのメッセージです。これは、三人の青年代表の声に答える形で話されました。そのひとつひとつの言葉は、聞き逃すことができないほど貴重なものです。中でも深く私の印象に残った言葉は、「祈りと黙想することの大切さ」でした。祈りや黙想は、社会や人々からの逃避ではなく、神様との関わりであり、神様は私を愛していただく、大切にしてください、ということを確認することです。そこからすべての人間的な関わりが始まります。そこで、「自分は他者のために生かされていることを知ります」（奉仕への招き）。祈りは、神との「霊的な呼吸」です。祈りと黙想を通して神の呼吸、命、思い、心を知るのです。このあたりは、とても深い神秘を語っておられます。そこから「笑うこと、楽しむこと、喜ぶこと」が生まれます。ゾンビのように心の鼓動が止まってしまった人に、他人の人生を喜ぶ

ことはできませんと教皇はおっしゃっています。

そして、「神はわたしたちを愛しているだけでなく、わたしたち一人ひとりに使命を、固有の召命を託しているのだと気づくことができます。それを知れば知るほど、他者に、それも具体的な人々に自分を差し出すまでになるのです」と教皇は語ります。

「知恵を養うための鍵は、正しい答えを得ることよりも、正しい問いを見いだすことにある」と言われます。その問いが正しければ、他者を助けられるようになります。

そして教皇は、次のように言って講話を終えられるのです。「夢を持ち続けましょう。夢を黙殺しないでください」と。さらにもう一つ、使徒的勧告「キリストは生きている」を心に留めておきたい



と思います。特に初めの言葉です。「キリストは生きておられます。このかたは生きておられ、あなたに生きる者であってほしくてたまらないのです。(1)」「このかたはあなたのうちにおられ、あなたとともにおられ、あなたを決して見捨てません。(2)」「神はあなたが大好きなのです。いかなる状況にあっても、あなたはどこまでも愛されているのです。(12)」その言葉を信じたいと思います。

そして、その結びの言葉をもって終わりたいと思います。私は一介の老爺にすぎませんが、同じ心をもって。「愛する若者の皆さん、のろのろびくびくしている人たちを追い越し駆けていくあなたたちを見られたなら、わたしは喜ばしく思います。わたしたちが聖体において礼拝し、苦しむ兄弟姉妹の姿に見いだす、あのいとしい顔に魅せられて駆けていきなさい。聖霊が、このレースを走るあなたを、前へとせきたててください。教会には、あなたたちの勢い、あなたたちの直観力、あなたたちの信仰が必要です。皆さんが必要なのです。だから、わたしたちのまだ見ぬ場所に皆さんがたどり着いたときには、どうか辛抱強く、わたしたちのことを待っていてください。」

(299)
「教皇フランシスコの願いです。同い年ぐらいの老人から。」

村上透磨

教皇フランシスコの

訪日メッセージに答えて(4)

教皇は、東京カテドラルで行われた「青年との集い」において、今を生きる青年たちに向けて、様々な問いかけをされました。

その場に参加していた京都教区の青年たちは、その問いかけにどのようにに答えたいと思っているのでしょうか。

「優れた宗教は、寛容・調和・いつくしみを教え、恐怖・分断・対立を教えません。私たちが神とともにおり、神とともに兄弟姉妹を愛するならば、その愛は恐れを吹き飛ばします」。

「祈り・黙想という内的な運動と、愛のわざ・奉仕という外的な運動の両方によって、私たちは成長し、神は私たち一人ひとりに固有の召命を託しているのだと気づくことができます。それを知れば知るほど、他者に自分を差し出すまになるのです」。

宗教的・道徳的・倫理的な正しさを他者に押し付けるのではなく、自らの生き方をもって寛容・調和・いつくしみを表現することで、信教の違いにかかわらず、この時代を共に生きる兄弟姉妹を巻き込み、その小さなムーブメントが自分

たちの周りから広がれば良いなと思いました。

今年から医師として働き始めましたが、経験の浅い自分にもできる奉仕、自分にしかできない奉仕があることに気づきました。今はそれを可能な限り実践することを心がけて仕事をしています。

西陣教会・徳田和樹



オルガンが鳴り響く中、入堂する司祭の行列 東京ドームにて

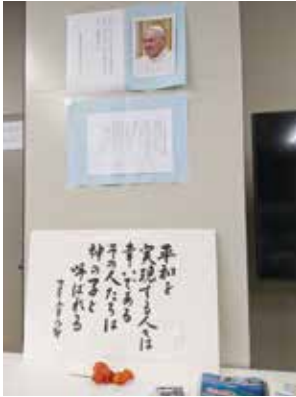
第13回戦争と平和写真展

カトリック京都教区正義と平和協議会

8月1日(土)～2日(日)、戦争と平和写真展を開催しました。

コロナ禍と猛暑の中で実施できましたことを感謝いたします。教会のミサも中止されている中にもかかわらず、会場をお貸しくださった河原町教会にお礼を申し上げます。そして、例年と変わらずご来場くださいました多くの方々、ありがとうございました。

平和に関する取り組みは色々ありますが、平和とは、正義とは何か、写真展から少しでも学ぶことができますようにと考えています。



今年の展示内容

フクシマ

2011年以来、あまり変わらない荒れたままのゴースト化した町、巨大タンポポ、殺処分される予定だった数頭の牛、いまだ手つかずの町の風景の写真に、なにか感じさせられるものがありました。

沖縄

2020年7月27日現在、辺野古の埋め立ては27%になりました。大浦湾の珍しい動植物、ラムサール条約機構からも保全声明が出される貴重な海、島、珊瑚、クマノミ、ジュゴン、多種の珊瑚の丘を残したい！

キャンペーンでは、おじいやおばあが、ダンプカーに埋め立てを廃止するようにお辞儀をして懇願する様子などの写真を展示しました。

核・第五福竜丸

今回、初めて取り上げたのが第五福竜丸。第五福竜丸は1954年3月1日、ビキニ環礁でアメリカ軍の水素爆弾実験により発生した多量の放射性降下物(死の灰)を浴びた遠洋マグロ漁船です。第

五福竜丸の船員23名全員が被爆し、久保山愛吉無線長が約半年後の9月23日に死亡しました。久保山さんは「原水爆による犠牲者は私で最後にしてほしい」と遺言を残されています。その後、焼津港では放射能マグロと呼ばれて風評被害が発生しました。この出来事が、日本での反核運動が始まる契機となりました。



「(それぞれの)写真は時の違いこそありますが、命がないがしろにされ、人の営み、生活が踏みにじられているということでは、同じ根につながっていると感じます」などの感想をいただきました。

また、開催にあたりまして、多くの方からのご協力と励ましの言葉をありがとうございます。今後の活動に生かしてまいります。

コロナの時代
教区で働く司祭の発信情報



神父さまが、
発信しています！

時報10月号入稿日9月1日現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、京都教区内では多くの小教区でミサや講座が行われていません。地域差はあるとはいえ、教会活動はストップし、共同体としての繋がりが断ち切られたかのように感じ、どのように信仰生活を送ったらよいの？ との声をよく聞きます。

しかし、現代はインターネットという便利なものがあり、京都教区のオンラインミサに与ったり、日本各地の神父さま方が発信されている福音の解説やお話を読んだり聞いたりすることができて、本当にありがたい時代だと思いました。

前置きが長くなりましたが、京都教区内でご奉仕くださっている神父さまが、ブロックで、また個人で発信されている活動をご報告いただき、一人でも多くの信徒の皆さんにご覧いただけるよう一覧にしましたので、スマホを使ってQRコードで読み取り、のぞいてみてください。(順不同)

所属ブロック 司祭名	配信内容など	QRコード
京都南部京丹ブロック 一場修 神父	YouTube で、主日の福音と説教、キリスト教入門講座、夏の聖書講座を配信中。説教と入門講座については9月以降も継続予定。来春も聖書講座を予定。	
京都南部京丹ブロック アントニオ・カマチョ神父	毎日の福音と一言 (音声)  	主日のミサ (動画) 
京都南部洛東ブロック 瀧野正三郎 神父	with コロナの時代だから始めたことではないが、「主日のみことば」と「子ども向けのテキスト」をHPに掲載。	
	HPにアクセスしてもらうために Facebook を活用。	
京都南部 洛東ブロック 菅原友明 神父	ブロッグー主日ミサの説教音声配信、フォトエッセイ、お知らせなど。 検索ワード：「くまたくんの忘れない場所」	
	子ども向けの動画配信、主日ミサの配信。 検索ワード：YouTube 「オンラインきょうかいがっこう」	
京都南部洛北ブロック ウィリアム 神父 ユン・サンホ 神父 北村善朗 神父	◇衣笠のカルメル会の協力を得て、主日のミサを YouTube で配信。 検索ワード：YouTube 「京都洛北ブロック主日ミサ」 ◇主日の朗読箇所について、「勧めのことば」を担当司祭が書いて発信。 洛北ブロック小教区（衣笠教会、高野教会）のHPに掲載。	

大塚司教の10月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、スケジュールの変更がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

10月のお知らせ

教 区

聖書委員会／Tel.075(366)6609 ㊤㊦

オンライン聖書講座(10～2月)

テーマ：コロナの時代に聖書を生きる
—混沌への光を探して— (全5回)

講 師：中川博道師(カルメル修道会)

日 時：8日㊤ 10:30～11:50

ZOOM を使用してオンラインで行います。詳細は聖書委員会HPまたはお電話にて。

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛メール honbu@kyoto.catholic.jp または Fax.075(366)6679 に発信者のお名前を明記してお寄せください。

訃報

シドニー・ニュージェント師
(マリスト会)



92歳。2020年8月8日、オーストラリアにて帰天されました。1957年来日、長年京都教区内でご奉仕くださいました。神父様の永遠の安息のためにお祈りください。

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：11日㊤ 14:00 洛星宗教研究館
24日㊤ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練習は休み。練習再開の場合、連絡網にて連絡いたします。

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：11日㊤ 15:30～17:30

(ZOOM でも参加できます)

対 象：15歳～35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

聴覚障がい者の会

手話表現学習会(聖書と典礼)

日時：10月22日㊤ 13:00～15:00

会場：希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10

感染防止対策の上、自己判断でご参加ください。コロナウイルスの蔓延状況により中止となる場合もあります。

問合せ：事務局 阿野 Fax：075(361)9082

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都 ㊤～㊦ 朝5:55 ㊤ 朝5:15

ラジオ関西 ㊤～㊦ 朝5:00 ㊤ 朝6:05

10月のテーマ「言葉の力」

※ 12月号の原稿締切り日は10月21日㊤です。

YES 2020開催します!

今年も11月にYESをします! が、やはりいつも通り合宿をすることが出来ないの
で、以下の日程でオンラインにて実施します。2002年から毎年行われてきたYESは
今年初めてオンラインでの開催となります。皆様に直接会えないのは残念ですが、例
年同様、大塚司教様に講話をしていただく予定なので、奮ってご参加ください!

日 時：11月7日(土) 15:00～17:00

場 所：オンライン(ZOOMを使用)

テーマ：『すべてのいのちを守るため』～教皇フランシスコの呼びかけに応えて～

対 象：18歳以上の青年(高校生不可)

企画の詳細については担当の運営委員で話し合い中なので、申し込み方法や詳細は後日HPでお知らせいたします。皆様の元気な顔が見られることを楽しみにしています!

三重地区運営委員・西院教会 栗井 幹

青年センターあんでな